

半導体漫遊記

湯之上隆

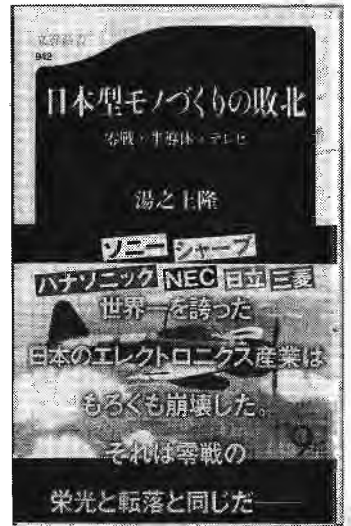
2013年10月20日
『日本型モノづくりの敗北 零戦・半導体』(文春新書)を出版した。その反響に驚いている。

この本では、エレクトロニクス産業、つまり、半導体やテレビについて、その敗北の原因を分析し、再生するのはどうしたら良いかを論じたつもりである。ところが出版後、繊維会社や建設業など異分野の企業から、「この本には我が社のことが書いてある、我が社が所属する産業界のことが書いてある」と講演依頼などを受け

た。この本に繊維産業や建設業などは一切登りの敗北 零戦・半導体場しないにもかかわら

敗北の原因分析、著書出版

発言舞台は国会へ



た結果を論じるつもりだ。その概要は以下の通りである。

①1980年月中旬に産業のコメとまで言われた半導体メモリDRAMから、日本が撤退したのはなぜか。

②1社残った日立と法が適用され公的資金300億円が注入されたのはなぜか、そして2012年に倒産したのか(図1)。

ず、である。これは、半導体や電子機器の問題が、他の製造業にも当てはまることを意味する。つまり本当に「日本型モノづくり」は、フラット化した現在の世界には通用しにくくなっているのではないか。そして、この本は、

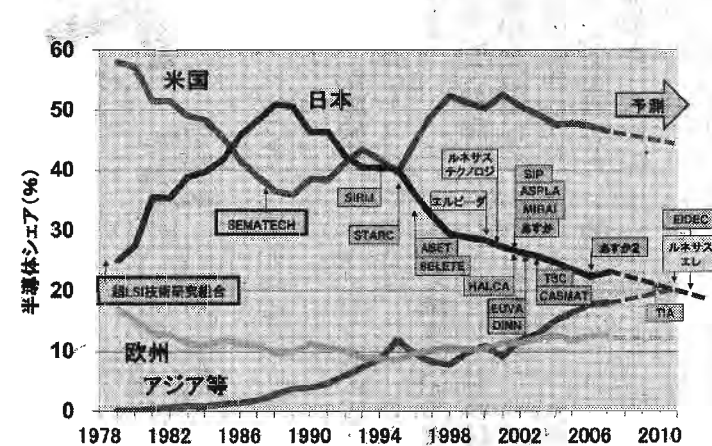


図1 乱立するコンソーシアム、国家プロジェクト

出所: 半導体メモリのデータはガートナーおよび一部筆者予測

NECの合併会社エルピーダが、2年間でシェアを4分の1に減らした。まず、参議院の「産業競争力強化法案」を議論する。この政策会議の後、参議院全体の経済産業委員会における「産業競争力強化法案」の審議に際して、参考人招致もあるとのことである。望むところである。日本半導体産業、さらには多くの日本の製造業の競争力向上のために一肌脱ごうではないか。(微細加工研究所・所長)